

鋼構造物の本県。パイオニア

(株)ムラヤマ

山形県産業賞(2014年度)に鋼構造物のパイオニア、株式会社ムラヤマが選ばれた。創業90年、大手設計事務所、建設会社の指導の下、建築物の文字通り「骨」となる鉄骨を未来への遺産として送り続けている。「企業の財産は社員、社員の幸せが社に発展をもたらす地域に貢献する」をモットーに鉄と向き合う歴史と経営方針を紹介する。

1926(大正15)年、初代村山兼吉が鍛冶町(現宮町5丁目)の鉄瓶のつるを製造していた「佃つる屋」の修業を終え、諏訪町の生家で独立後、新銅町(現宮町4丁目)に新たに自宅と工場を建てて「村山つる屋」を開業したことから始まる。昭和に入り実弟栄吉と、当時普及し始めていたコンクリート製電柱の型枠づくりを手掛けたのを契機に鉄工鍛冶の仕事が増加。警鐘台(火の見櫓)、ボイラー・タンクの製作を開始した。

戦後、米進駐軍のボイラー・煙突・冷暖房設備工事請負に始まり、奥羽本線橋岡駅の跨線橋、大沼百貨店、学校体育館、寺院の鉄骨工事業務を本格化。北町に鉄塔、クレーンを設

備した工場を建設法人化する。昭和49年9月に現在地(西部工業団地)に工場を全面移転し、松波に新築移転した県議会議事堂の鉄骨工事を手掛け、名実ともに本県の鋼構造物業界のリード役となった。

大きな飛躍の契機となったのが昭和57年の山形市役所新庁舎(地上11階・地下1階)の鉄骨工事。川崎重工の技術支援を受けながら完成させる。以後、山形市内だけでなく町再開発ビル(アズ7日町)、山形市総合スポーツセンター、ホテルメトロポリタン山形、山形国際交流プラザ、荘内銀行山形ビル、霞城セントラル、県立中央病院等々主だった建物の建設に携わる。

一方、独自の技術開発に取り組み、多目的施設に必要な無柱構造を実現するため、鉄骨を三角形に組み立て安定させるトラス構造(MTTトラス)を開発する。また、山形、酒田工場が、(株)全国鉄骨評価機構より国土交通大臣認定の工場性能評価で高層ビル建造物に適用される「Hグレード」に相次いで認定された。工場設備も溶接ロボットを導入して完全自動化を実現。CADシステム

により工作図を作成している。平成22年、山形県工業技術センター

と共同で、溶接作業を効率化する技術「25度レ形開先(かいさき)」を開発し実用化した。建築鉄骨の突合せ溶接の開先(母材間の溝)をそれまでの35度から25度に狭くすることで、溶接金属量を約30%、溶接ガス約40%削減、作業時間の短縮に成功した。こうした実績、取組みが評価され2014年度の県産業賞を受賞した。

県産業賞を受賞

発注者に感謝 正社員が財産

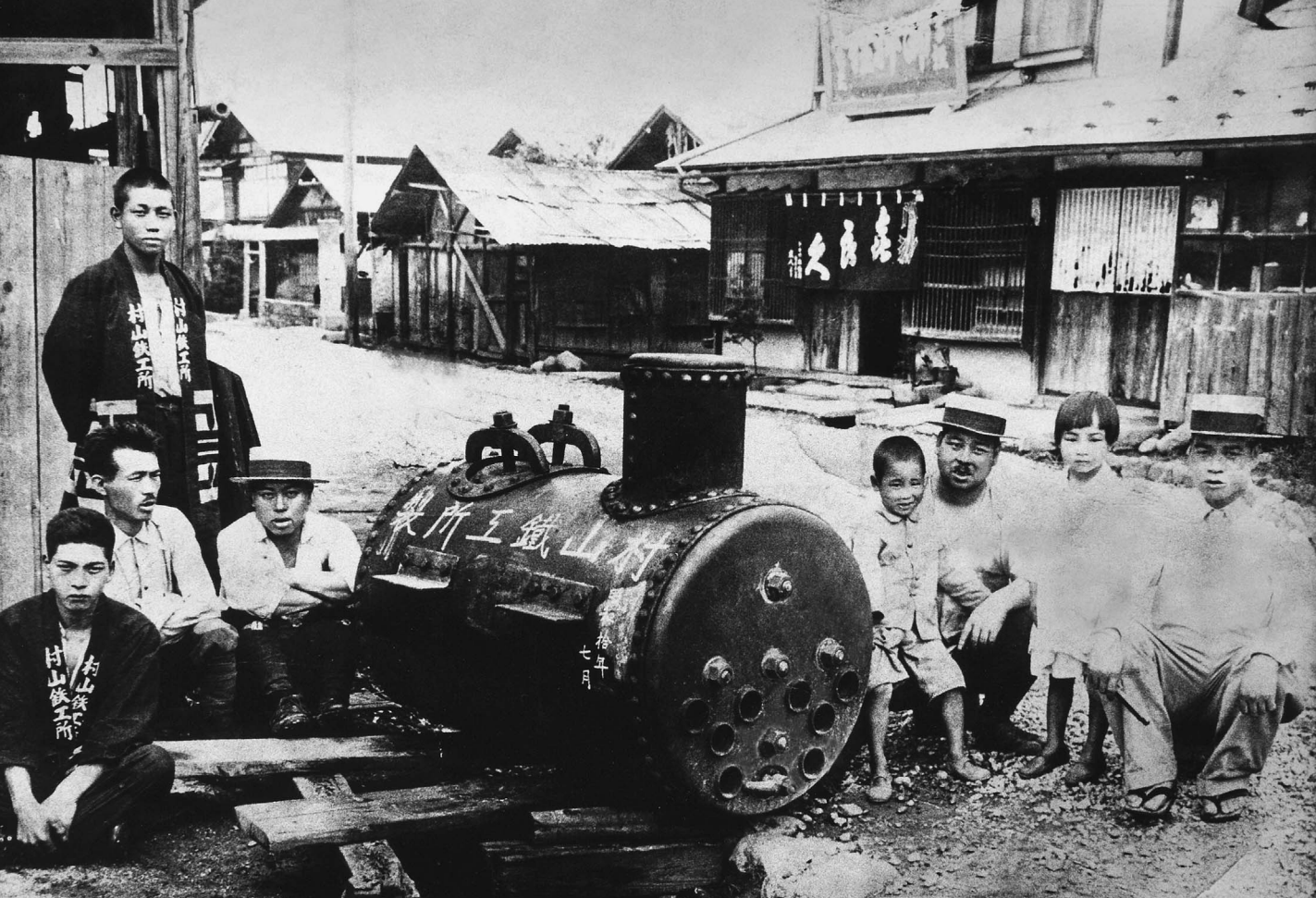
村山功代表取締役

村山功代表取締役は今後の抱負などについて聞いた。
 ―県産業賞受賞式で発注者、建設業界に感謝の言葉を寄せましたが。村山代表取締役 発注者から指名を受けて、私たちの仕事が成り立つ

ているわけですから。ことに、エポックとなったのは山形市役所庁舎の新築工事で、当時、実績のない県内業者が入り込む余地はありませんでした。市当局が「地元業者を育成しなければ」と、大手の川崎重工の技術指導を条件に発注、初めて鉄骨鉄筋コンクリート(SRC造)の高層建造物を手掛けることができたのです。ミリ単位での精度が求められる鉄骨組み立て技術、工程管理など最先端の技術を肌で知り、それ以降、大型建築物工事に参入することができるようになりました。

―全国の業界で初の「25度レ形」を開発しました。

村山代表取締役 鉄鋼メーカーで製造された鉄骨鋼材を使い、設計図通りにいかに忠実に納品できるか、ゼネコン等発注者の要求をどう実現するかが課せられた使命です。そのためには溶接過程で熱による歪(ひず)みを最小限に食い止め、矯正による材質へのダメージをいかに抑えるかなど、絶えざる技術革新が求められております。「25度レ形」の開発はそのひとつです。溶接金属量が多くなればコスト、環境の問題だけで



昭和10年、自社製ボイラーを完成し記念写真(右から創業者村山兼吉、ひとり挟んで弟栄吉)

株式会社ムラヤマ

創業大正15年、設立昭和36年。主な事業内容は建築鉄骨・建築一式工事・橋梁・耐震補強・鉄塔工事。昭和56年よりHグレード認定工場に。資本金6、500万円。村山功代表取締役。本社・山形市鑄物町40番地。社員150名。本社工場のほか酒田に工場、仙台に営業所。



(上)建築物の根幹を支える鉄骨製品が生み出される本社工場。(下)吉村知事から県産業賞表彰を受ける村山代表取締役。



新たな飛躍となった山形市役所新庁舎の鉄骨工事。

なく、溶接範囲が広くなり、それだけ熱による歪みの可能性が高い。開先角度を狭くすることによって解決できると考え取り組んだ成果です。溶接ロボットメーカーと共に開発したが、どうしてもうまくいかない。その時、父の代から長く勤めていた職人が知恵を出してくれ、たちどころに解決しました。素材を知り尽くした現場の知恵が、最先端のロボット技術と結びついたわけです。

―会社を発展させるものは、無限に成長できる各人の能力だけである、と社訓でうたっていますが。

村山代表取締役 これは2代目社長の父業が定めたものです。父は「正社員でモノをつくる」を方針としていました。確かに第二次石油ショック、バブル崩壊等で受注が激減し苦境に立たされた時代がありました。この方針を守って来ましたし、逆境から立ち上る糧となってきました。企業は人なりです。

また、社の特長の一つがQC活動とそれを具体化する提案活動です。製造、管理、営業、総務すべての部門で社員に改善提案を求め、日常業務に積極的に採用、全国に改善事例として紹介しています。全社員が総意工夫し汗を流し仕事を成し遂げる達成感。何ものにも代えがたいものであり、今後とも共有していきたいと思えます。